

特集

持続可能な 病院運営のための コスト 管理

企画：川原 丈貴（川原経営グループ代表）

近年、物価高騰や賃金上昇圧力などの外部要因により病院のさまざまなコストが上昇している。一方で病院の収入のほとんどは公定価格である保険診療によりもたらされるため、コスト上昇を価格に転嫁させることができない。また、コスト削減に取り組むにあたって医療の質や医療従事者のモチベーション低下を招いてはならず、コスト管理を慎重に行わなければならない。

経営環境が不安定化するなか、病院はコスト管理にどのように向き合っていくべきか検討する。

本特集の論旨が分かる Point 一覧

p.692 収益側も意識した損益管理としてのコスト管理が重要である。またコスト管理は、医療サービスの費用対成果としての価値の向上を目指す管理であるべきである。医療界においてもサービスの価値企画は有効であり、価値企画策として各種のコスト管理策を実践すべきである。
(荒井 耕)

p.698 病院は労働集約型の産業であり、医業収益に対する人件費の割合が50%を超えており、黒字経営のためには適切な管理が必要である。総額人件費、賃金単価、配置職員数などさまざまな観点から、総合的に分析・判断し、人件費をコントロールすることが求められる。
(薄井 和人)

p.704 医療材料費の高騰が続いている。医療材料のコスト管理のポイントは、医療材料の同種同効分類、標準化、価格ベンチマーク、共同購買、単回使用医療機器の再製造品の活用、医療材料マネジメントを行う専門人材養成である。
(武藤 正樹)

p.710 昨今、医療機関はサイバーセキュリティ対策やICT利活用が求められ、情報システム投資が増加している。機微な患者情報を扱う医療機関は、情報セキュリティが不可欠であり、働き方改革推進にはICT導入が欠かせない。拡大するシステム投資に対して診療報酬の補填は乏しく、低コスト高パフォーマンスが求められる。
(佐伯 潤)

p.716 病院給食運営コストの比重は人件費が最も高く、調理する食種が増加するとともに、配置人員が増加し人件費が高騰する。従って運営コストを抑えるためには、食種の集約を検討し人件費を抑えることが必要だが、個別対応は食事の質確保に必要な行為であり、食種の集約は栄養部門だけではなく経営判断が必要である。
(渡辺 正幸)

p.722 診療報酬改定は厳しく、人手不足は深刻化し、物価高、特に建築費の著しい高騰にて病院経営は悪化している。エネルギー価格の高騰も経営を圧迫しているが、健康を守る医療産業の義務として大気汚染、水質汚濁、さらには地球温暖化対策に同時に取り組むことが病院としての正しい姿であろう。われわれ伯鳳会グループの取り組みの一端をご紹介します、若干の考察を加える。
(古城 資久・櫻井 勇介)